

産学連携によるキャリア教育への取組

～「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」～

平成20年3月

経済産業省

産業人材参事官室

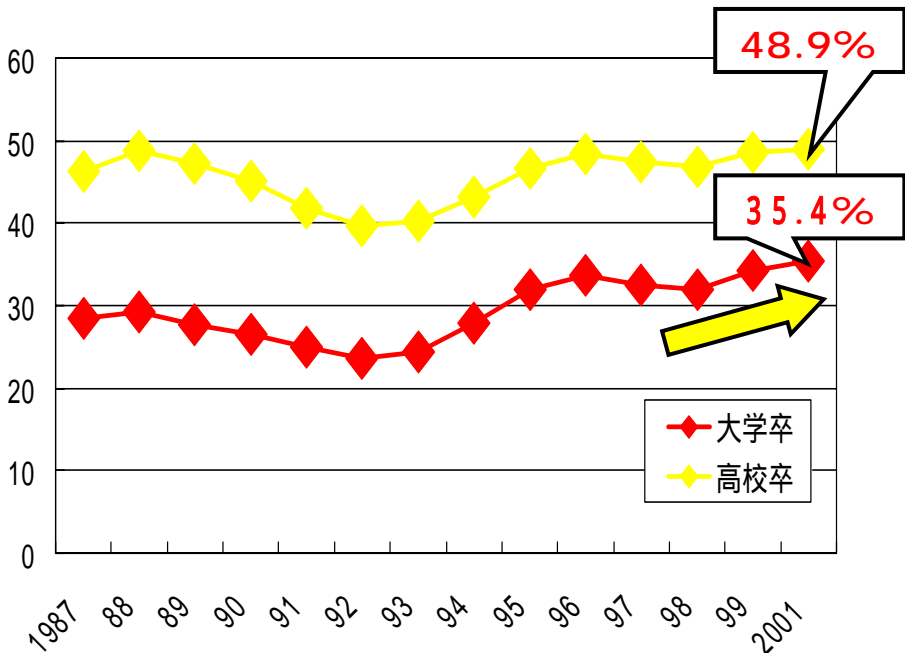
1. キャリア教育に取り組む背景

近年、ニート・フリーターの増加や若者の早期離職の加速など、**産業界にとっても、「学校から職場への移行(School to Work)」が大きな問題へと発展。**

その背景として、現代の若者が、職場や社会に出る前段階において、自分の能力・適性や将来に対する目標を見失っていることが大きく影響していると考えられる。

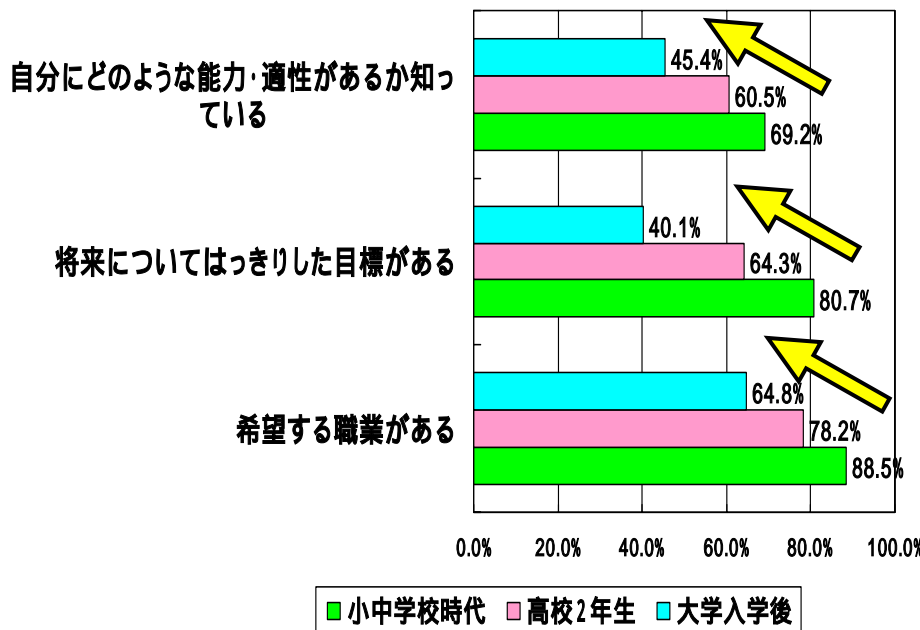
そのため、経済産業省では、平成17年度からの3年間、子どもたちに対して、ものづくり等を通じて働くことの面白さの体験・理解を促し、職業観の醸成を図るため、**地域に密着した体系的なキャリア教育を支援。**(地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト)

(新規学卒者が3年以内に辞める割合)



(出典)厚生労働省「職業安定局業務統計」より作成

(職場や社会が近づくにつれて目標を見失う傾向)



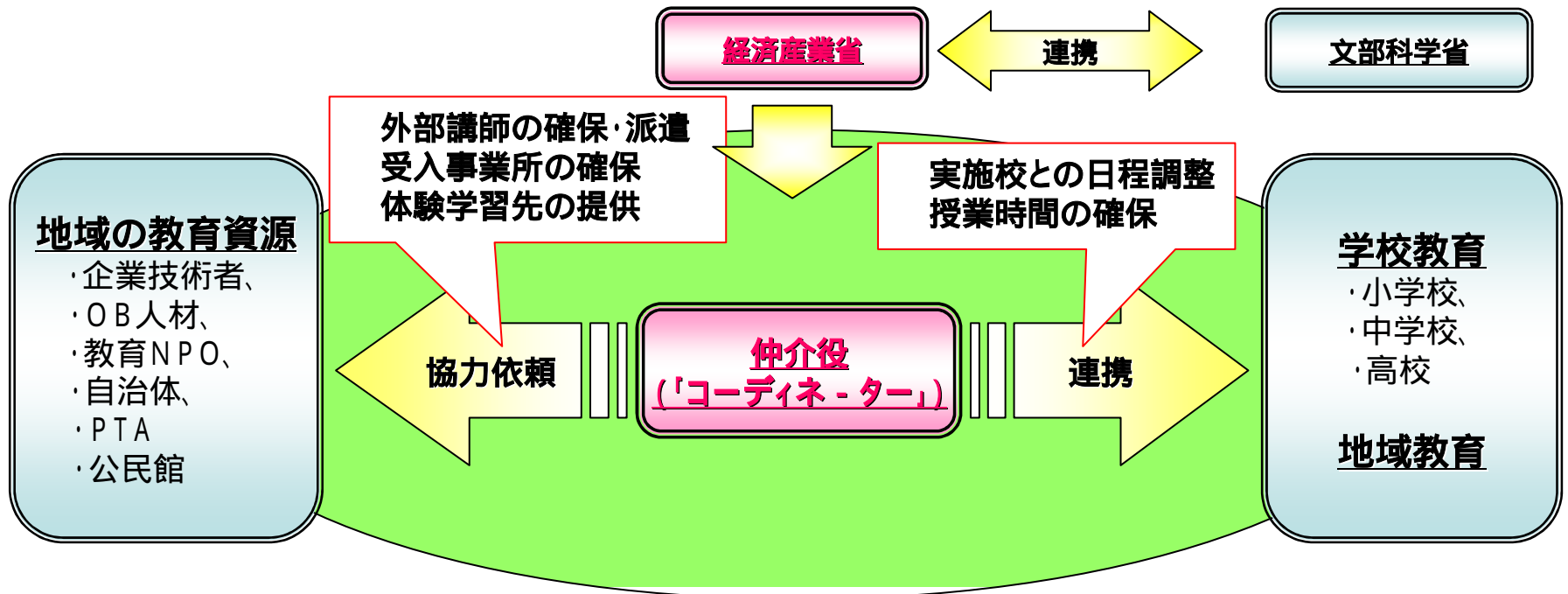
(出典)ベネッセコーポレーション「進路選択に関する振り返り調査」(2005)

2. 経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」

経済産業省の支援のポイントは、単に学校や産業界を支援するのではなく、企業・NPO等**地域の民間主体を仲介役(「コーディネーター」)**として支援することを通じて、**学校と産業界・地域による一体的なキャリア教育の仕組み構築**を図ること。

平成19年度は、全国で28件のモデル事業を採択。

<「コーディネーター」を置いたキャリア教育のイメージ>



(参考)平成19年度のモデル地域一覽

モデル地域では、「コーディネーター」が、体系的・効果的なカリキュラムの構築、地域資源の協力による授業実施、「顔の見えるネットワーク」の構築について、その地域ならではの工夫を凝らした取組を実施している。

